

第2章

2章 中富良野町の景観特性と課題

1. 中富良野町の景観特性

(1) 景観特性の捉え方

中富良野町の景観特性を把握するため、中富良野町の景観をつくり出している大切な要素を5つに整理します。要素として、土台には森林や丘陵地、盆地、河川などの「自然・地形」、その上に特有の地形を利用した「農林業」、道路や鉄道、市街地などの「まちの基盤」、古くから町で継続して取り組んでいる「花畑と観光産業」が重なり合っています。

さらに、町民を始めとする中富良野町に関わる人々の町に対する「愛着心」や、過去から現在へ人々の活動により引き継がれてきた「文化」が、自然・地形、農林業、まちの基盤、花畑・観光産業までを守り、育て、創っており、中富良野町の景観を形成していると言えます。

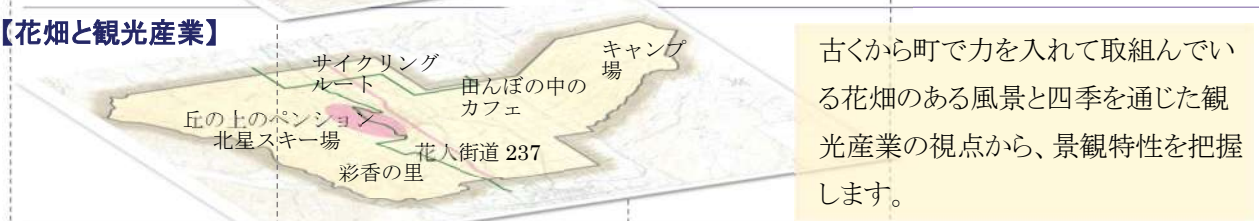
大切な視点として、現在目に見える要素のみを把握するのではなく、現在の景観に影響を与えている要素ごとの歴史的な積み重なりや変遷を理解した上で、景観特性を把握します。

【町民の愛着心・文化】



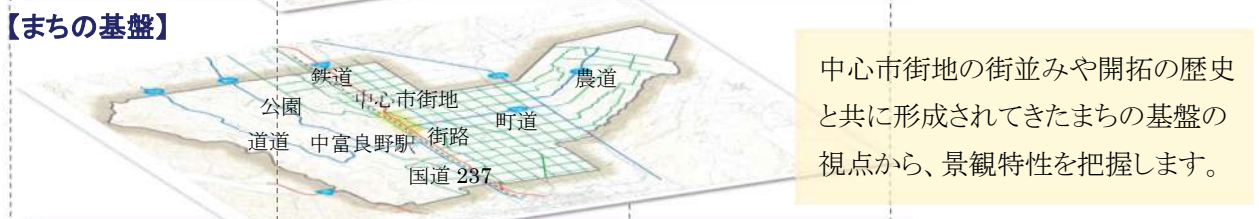
町民の愛着心を感じる花植えや草刈などの暮らしの中の活動、お祭りやイベント等の文化活動の視点から、景観特性を把握します。

【花畑と観光産業】



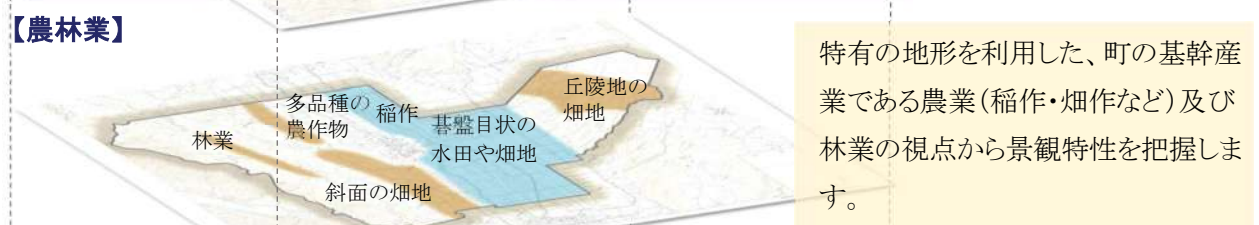
古くから町で力を入れて取り組んでいる花畑のある風景と四季を通じた観光産業の視点から、景観特性を把握します。

【まちの基盤】



中心市街地の街並みや開拓の歴史と共に形成されてきたまちの基盤の視点から、景観特性を把握します。

【農林業】



特有の地形を利用した、町の基幹産業である農業(稲作・畑作など)及び林業の視点から景観特性を把握します。

【自然・地形】



中富良野町の景観の骨格となる自然環境(山々など)や高低差のある地形など自然や地形の特徴から捉えられる景観特性を把握します。

中富良野町の景観特性を把握する要素階層図

(2) 景観要素

中富良野町の景観特性を把握するため、前述した階層ごとに、景観要素や資源を整理します。

1) 自然地形に関する景観要素

山地や河川など中富良野町の景観の骨格となるものの視点から「自然地形に関する景観要素」を以下の6つの要素に整理します。



① 気象

中富良野町は内陸性の気候で、冬は厳寒、夏は酷暑と極端な二面を持っています。

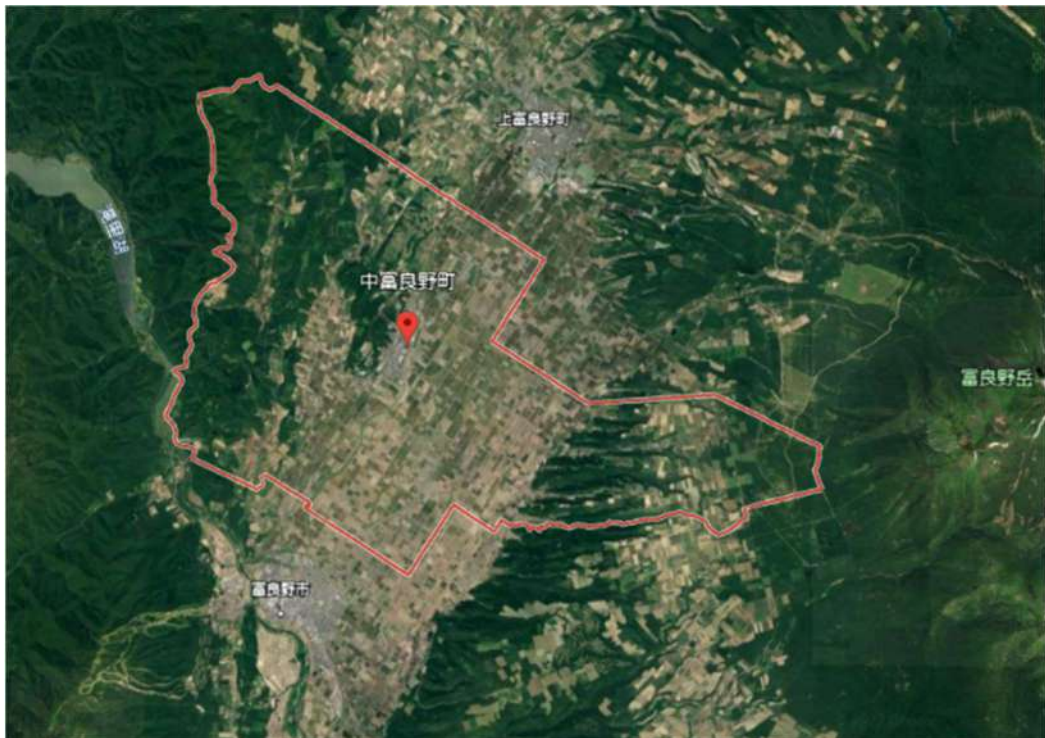
年間平均気温は7.1℃となっており、夏季は30℃以上、冬季は-25℃以下になる日もあり、年間の寒暖差は50℃以上となることもあります。

積雪は平野地で1m程度であり、4月中旬には融雪する、農業気象としては最適な町です。

② 地勢

中富良野町は北海道のほぼ中央に位置する町で、上富良野町、富良野市、芦別市、美瑛町の一部と接しています。東西17.9km、南北13.4km、総面積108.65km²のまちで、東部には十勝岳を主峰とする千島火山脈が連なっています。また、大雪山を眺望することもでき、夕張山地が南西に縦走し、夕張岳、芦別岳が富良野高原の景勝をなしています。

町の中央部は平坦で広々と開けており、東北から南西に向かってゆるやかな傾斜を持っています。



中富良野町の衛星写真

出典：Google Earth (2022)

③ 山岳

標高 2,077m の十勝岳は、北海道中央高地の大雪山十勝火山列^{*}の南西端に位置し、大雪山十勝火山列南西部で最も高い山です。現在も火山活動が続いており、活火山ならではのダイナミックな景観を形成しています。



十勝火山列南西部は、北東から美瑛富士（標高 1,888m）、美瑛岳（標高 2,052m）、十勝岳（標高 2,077m）、富良野岳（標高 1,912m）、前富良野岳（標高 1,625m）と並ぶ新旧の火山からなっています。十勝岳の新しい火口群は十勝岳の主稜線より北西側 1km 付近に形成され、火口、火砕丘、溶岩流などの新しい火山地形は十勝岳の北西斜面によく見られます。過去 150 年の間に 5 回の比較的大きな噴火があり、大正 15 年（1926）の噴火では麓の町に 144 名の犠牲者を出しました。

十勝火山列の裾野は美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、新得町へ広がっています。

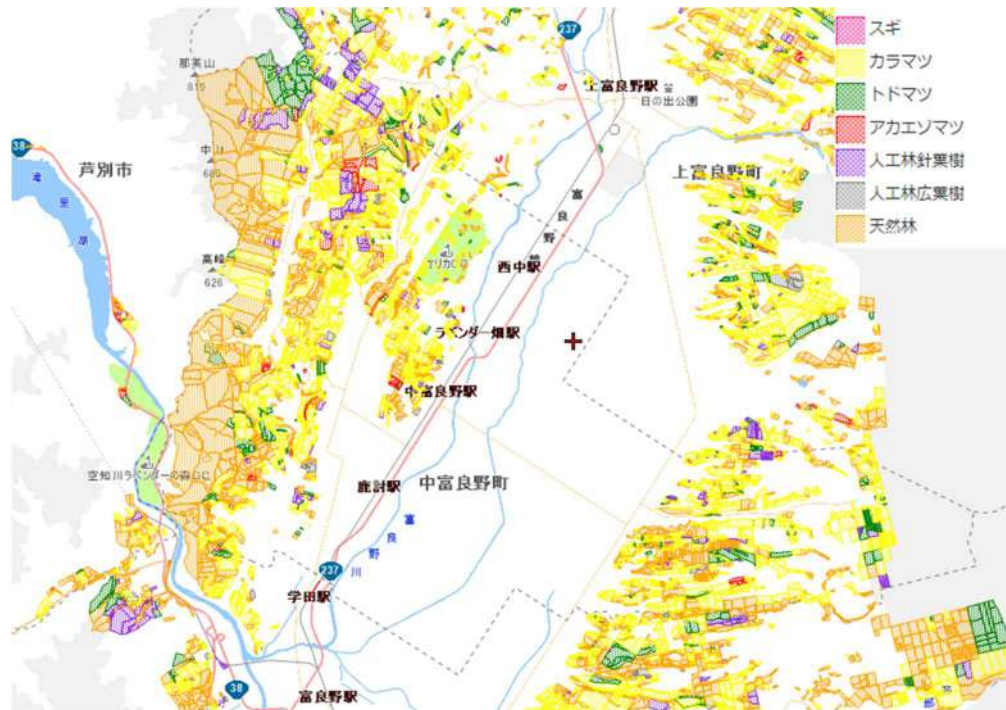
十勝岳連峰の最南に位置する標高 1,912m の富良野岳は、高山植物が豊かなことでも知られ、景色と共に自然散策も楽しむことができます。麓には原始ヶ原が広がり、壮大なスケールの風景を形成しています。

^{*}火山列：1 列に並ぶ火山群のこと。火山帯よりも規模が小さい。

④ 森林

中富良野町の森林面積は 3,911ha で、町の総面積の 36%を占めており、そのうち町有林は 97ha (2%)、町有林を除く一般民有林(私有林等)は 3,814ha (98%)あります。

森林は、町の西端から中富良野駅にかけて、及び東端に分布しており、特に西端に多くの天然林があります。その他、森林地帯となっている多くの範囲にカラマツやトドマツ、アカエゾマツなどの人工林が多く見られます。



森林の樹種

出典：(北海道森林計画課ほっかいどう森まっぷ)

⑤ 河川

中富良野町は、東北から南西に向かってゆるやかな傾斜をもち、上富良野町に水源を發した富良野川、デボツナイ川、ヌッカクシ富良野川、ベベルイ川、シブケウシ川の各河川が平野を貫流しています。

富良野川は、石狩川の支流の空知川（1次支流）のさらに支流（2次支流）である一級河川です。流域面積373.9km²（山地部222.5km²、平地部151.4km²）、流路延長40.2kmで、十勝岳の噴火による影響で水の酸性度が強く、魚族の生息は不可であるとされています。

富良野川からは17の支流（3次支流）が延びており、そのうちの主要な河川であるベベルイ川は富良野盆地東端を流れています。ベベルイ川の支流（4次支流）であるヌッカクシ富良野川が、デボツナイ川などの支流（5次支流）を集めて流れています。ヌッカクシ富良野川は富良野市の東学田付近でベベルイ川に合流し、ベベルイ川はその直ぐ下流で富良野川に合流しています。

富良野川では、北海道クリーン作戦と石狩川クリーンアップ作戦を通して、町民による河川敷のゴミ拾いが行われています。



⑥ 動物

中富良野町は前述の通り、森林が町の総面積の36%を占めており、動物の生息環境が広がっています。また、北星山の西側には森林公園が隣接し、人々の身近なところで様々な動物が見られます。

哺乳類: エゾシマリスやエゾリスなどの北海道の固有種^{*}、キタキツネやエゾシカ、エゾユキウサギなどの北海道の地域亜種^{**}、エゾタヌキなども確認されています。

両生爬虫類: 両生類ではニホンアマガエルやエゾアカガエル、爬虫類ではニホンカナヘビ、シマヘビなどが生息しています。

鳥類: 北海道レッドリストで準絶滅危惧種となっており北海道の固有種であるエゾライチヨウを始め、アカゲラ、ヤマゲラ、カッコウ、ヤマシギ、オジロワシ、ヨタカ、メジロ、ウグイス、オオルリなど様々な鳥が確認されています。

昆虫類: エゾオオマルハナバチやセイヨウミツバチ、カブトムシ、アキアカネ、エゾハルゼミ、キアゲハ、ジョウサンミドリシジミ、トノサマバッタなど様々な昆虫が見られます。



^{*} 北海道にしか生息しない生き物。

^{**} 道外にも生息しているが、道外と北海道とでは違う姿を見せる生き物。

2) 農林業に関する景観要素

先人の苦勞と努力で今に繋がる、中富良野町の特有の地形を利用した町の基幹産業である農林業の視点から「農林業に関する景観要素」を以下の4つの要素に整理します。

農業

林業

農業の歴史

地区ごとの農業景観

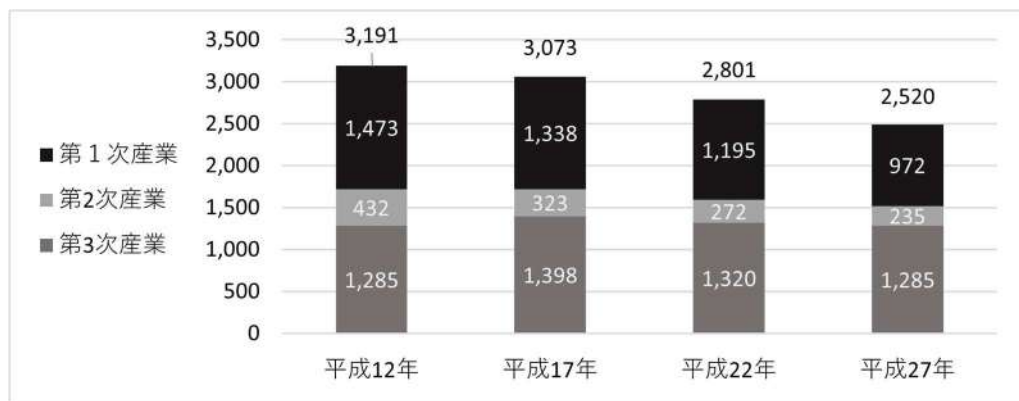
① 農業

中富良野町の就業者数を産業3部門別にみると（平成27年国勢調査）、農業、林業、漁業などの第1次産業の構成比率（39.0%）は全国平均（3.8%）や北海道平均（7.0%）を大幅に上回っており、中富良野町が農業のまちであることを裏づけています。

しかし、これまでの推移をみると、その第1次産業と第2次産業が人数、構成比率ともに減少し、就業構造が大きく変化してきています。

（単位：人）

項目 \ 年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就業者総数	3,191	3,073	2,801	2,520
第1次産業	1,473 46.2%	1,338 43.5%	1,195 42.7%	972 38.6%
第2次産業	432 13.5%	323 10.5%	272 9.7%	235 9.3%
第3次産業	1,285 40.3%	1,398 45.5%	1,320 47.1%	1,285 51.0%



就業構造の推移

中富良野町総合計画よりP9(出典：第6期なかふらのまちづくり総合計画、国勢調査)

基幹産業となっている農業において、特に水稻の収穫量は令和元年時点で米10aあたりに対し587kgと、全国（528kg）や北海道（571kg）よりも多くなっています。

作付面積は、令和元年において水稻が1,180ha、ニンジンが818ha、秋小麦（種子小麦含む）が673haとなっており、その他甜菜や馬鈴薯、玉葱などの作付面積も100ha以上となっているなど、多様な作物を生産しています。

また、令和元年の耕地面積は4,168haとなっており、うち水田総面積が2,998ha、畑作総

面積が1,152haとなっています。

平成11年には、「クリーン農業推進の町」を宣言し、米等の主要な食料の安定供給を図りながら豊かな自然環境を生かした農業を展開しています。環境にやさしく安心安全な有機栽培や減農薬農法、減化学肥料を基本とし、土づくり等の適切な栽培管理に努めています。

(単位:ha)

作物 \ 年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3
水稻	1,220	1,215	1,206	1,180	1,168	1,134
秋小麦(種子小麦を含む)	626	624	593	673	670	679
大豆	68	77	68	58	65	63
小豆	9	10	25	31	31	16
馬鈴薯(加工・種子含む)	115	123	124	116	107	107
甜菜	146	134	132	126	134	136
人参	75	80	76	76	70	78
玉葱	783	798	804	818	802	810
南瓜	127	131	114	111	107	103
スイートコーン(加工含む)	126	116	104	91	82	85
グリーンアスパラ	49	49	46	40	37	33
メロン	33	32	33	30	29	24
西瓜	5	5	5	5	6	5

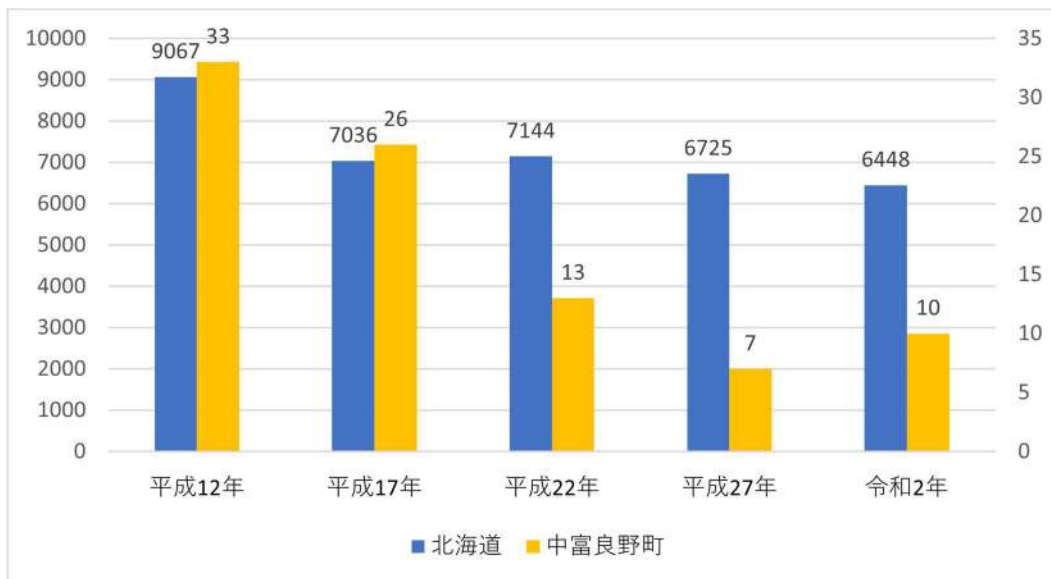
(資料:JA ぶらの作付面積実態調査)

主要農作物作付面積の推移(出典:中富良野町農業要覧 2021)

② 林業

林業就業者はここ20年間で減少傾向が見られます。北海道全体の林業就業者数と比較すると、平成12年から令和2年で北海道が約3割減少しているところ、中富良野町では約7割減少しています。

中富良野町の民有林の資源構成は、所有規模が小さく人工林率が高くなっており、木材市況の低迷などにより、それら資源の生産力が高くない現状があります。



林業就業者数の推移(仮) (出典:国勢調査より作成)

③ 農業の歴史

中富良野町の開拓は明治 28 年（1895）に開始され、農業の開発を軸として形成されました。町の中央部の平坦地にはヌッカクシフラノ川とデボツナイ川の 2 つの川が注ぎ込んでおり、極度の泥炭湿地だったため、河川の沿岸や特に本幸一帯の丘陵に近い旭中地域の開墾が順調でした。開墾は食糧自給のための耕作により始められ、麦類、イナキビ、馬鈴薯、南瓜などが主食として播種されました。

明治 29 年（1896）から政府によって植民地区画が設定され、本格的に開拓移民が富良野原野に足を踏み入れることになり、現在も残る碁盤の目状の区画が完成しました。

ベベルイ川沿岸の入植者により明治 31 年（1898）に水稻試作に成功し、翌年から水田耕作者も次第に増加するようになりました。一方で、大正 2 年（1913）の大冷害による凶作や不景気で傾いた農家経済を立て直すきっかけとして、大戦景気があります。大正 3 年（1914）に第一次世界大戦が勃発すると、参戦被災国への農産物輸出が急増し、日本の経済は輸出の好況で空前の景気上昇をみました。中富良野町でも輸出の花形であった豆類の作付けが集中する傾向があり、この景気は本町の畑作地帯の開拓を 10 年早めたといわれています。大正 6 年（1917）には、豆類の作付面積が農用地全体の面積の 76% を占めていましたが、第一次世界大戦の終結とともに景気は下降し、一大不況に暗転しました。

一方、比較的価格の安定した米の生産奨励が政府の食糧増産政策に並行して行われ、大正 8、9 年（1918、1919）ころから試作造田が進みました。さらに兜谷徳平が中心となり、工事中の水害等数々の困難を乗り越えながら、大正 8 年（1919）の中央大排水路の完工によって土地の乾燥が良くなり、ヌッカクシフラノ川とデボツナイ川沿岸の開拓は大きく前進、さらに大正 12 年（1923）の山手幹線による用水が完備されたことにより空知川の真水を導水できるようになり、中富良野町の水稲農業は飛躍的に発展しました。平坦部の中央大水路や張り巡らされた用水路は本町の特徴的な農業景観の一つとなっています。

その後、十勝岳の爆発による災害や凶作を乗り越え、中富良野町は北海道有数の水田地帯となりました。近年、平坦地では水田から畑作への転作が見られ、区画ごとに様々な表情の景観が広がっています。また、平成 20 年度（2008）から令和 2 年度（2020）に行われた国営農地再編整備事業により、畑作や草地が形成されてきた丘陵地では、機械化が進み、丘陵地斜面でも大規模畑作農業が進められています。

3) まちの基盤に関する景観要素

町の中心部に位置する市街地の街並みや広域に繋がる道路、鉄道などの視点から「まちの基盤に関する景観要素」を以下の3つの要素に整理します。

市街地

交通

公園

① 市街地

中富良野町の市街地は、主に JR 中富良野駅から東側、国道 237 号に沿って形成され、国道の東側には町役場や町立小中学校が立地しており、民間施設や公共施設が集中するコンパクトな市街地が形成されています。

国道 237 号沿いには、農協やスーパー、酒屋、自転車屋、飲食店など様々な商業施設が連なる商店街となっています。

また、北星山の裾に位置する基線沿い及び周辺には、北星山ラベンダー園やなかふらのフラワーパーク、ペンションなどの観光施設が立地しています。

歴史的な資源として、JR 中富良野駅前には煉瓦と軟石で造られた農業倉庫が連なり、印象的な景観を形成しています。また、町役場に近接して町の歴史文化を伝える中富良野町郷土館があります。



② 交通




中富良野町の道路網は、国道 237 号と基線を軸に形成されています。農村地域を横断する道道や町道が基盤の目の農業景観を印象付けています。また、今後旭川市を基点として占冠村までつながる旭川十勝道路が、中富良野 IC まで開通予定で、概略ルート及び構造の検討が行われています。

公共交通は、JR 富良野線が通っており、札幌駅からは約 2 時間 40 分、旭川駅からは約 1 時間で中富良野駅へ到着します。農村地域を走る車両や、車窓から見る農地及びその向こうに見える山並みが印象的な景観を形成しています。町内には JR 中富良野駅を中心に全部で 4 つの駅があり、そのうち「ラベンダー畑駅」は JR 富良野線の臨時列車である「富良野・美瑛ノロッコ号」のみが夏季限定で停車する臨時駅です。民間路線バスでは、札幌から約 3 時間（富良野市での乗り換え含む）、旭川駅からは約 1 時間 20 分で中富良野町市街地に到着します。



③ 公園

中富良野町には、町の景観づくりに寄与する公園として、駅に隣接し緑の憩いの場を創出しているなかふらのドリームパークや、町民や観光客が多く訪れる北星山周辺には中富良野森林公園やなかふらのフラワーパークがあります。

公園名	位置	概要	写真
なかふらのドリームパーク	中富良野町西町7	中富良野駅の西側に位置する俳句石碑のある公園。緑に囲まれ、公園の傍らを走るJR車両を望むことができ、町民や観光客の憩いの場となっている。	
中富良野森林公園	中富良野町西1線北13号	北星山の西側に位置する森林公園には多くの遊歩道が整備されている。春には桜やチューリップが満開になり、秋には紅葉に囲まれる静かな屋外空間。	
なかふらのフラワーパーク	中富良野町宮町2-1	北星山に隣接する噴水のある芝生の公園。中富良野町開基100周年の際に作られ、季節ごとの花が彩りを添える。	

都市公園一覧（出典：中富良野町ホームページ）

4) 花畑と観光産業に関する景観要素

古くから町で力を入れて取り組んでいる、花畑のある風景と四季を通じた観光産業の視点から「花畑と観光産業に関する景観要素」を以下の2つの要素に整理します。

花のまちづくり

観光

① 花のまちづくり

中富良野町では、町の主導で町民と協働する花のまちづくりに取り組んでいます。フラワー都市交流連絡協議会（花をまちづくりのシンボルにし、活力と安らぎのある住みよいまちづくりを目指す全国9都市が組織する団体）に参加し、自治体相互に都市交流を行っています。

花のまちづくりを推進するため、毎年5月～6月にかけて町民や学校などを対象に、町内の事業者や振興センターでつくった花苗や苗木等の無料配布や、花壇コンクールを実施しています。住宅の庭先や商店の店先に植えるための花苗を毎年2万株程度配布しています。

国道237号沿いの商店街では商工会女性部のボランティアや高齢者事業団の協力を得ながら、花植えや花壇の管理を行なっています。

町内の有志が集まるフラワーメイトの会では、町役場や駅、町内の公共施設の花壇の花植えや管理をする他、農地の沿道にフラワーロードを作って来訪者を楽しませています。その他、花壇のデザインや花苗の育成、花に関する勉強会への参加など、花のまちづくりに精力的に取り組んでいます。近年では、地域おこし協力隊も参加して、花を主役に据えたまちづくりに力を入れています。

② 観光

令和元年の中富良野町の観光入込客数は約115万人となっています。平成26年は約92万人となっており、上昇傾向にあることが分かります。また、道外客よりも道内客が多く訪れています。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、客足が遠のき、例年の半数以下の入込客数となりました。

観光資源として、北海道のラベンダー観光発祥の地として有名なファーム富田をはじめ、北星山ラベンダー園やフラワーパーク、森林公園などの観光関連施設が整備された北星山一帯、民間のゴルフ場や温泉施設、キャンプ場の他、数多くのペンションやホテルなどが町内に約30店舗あります。

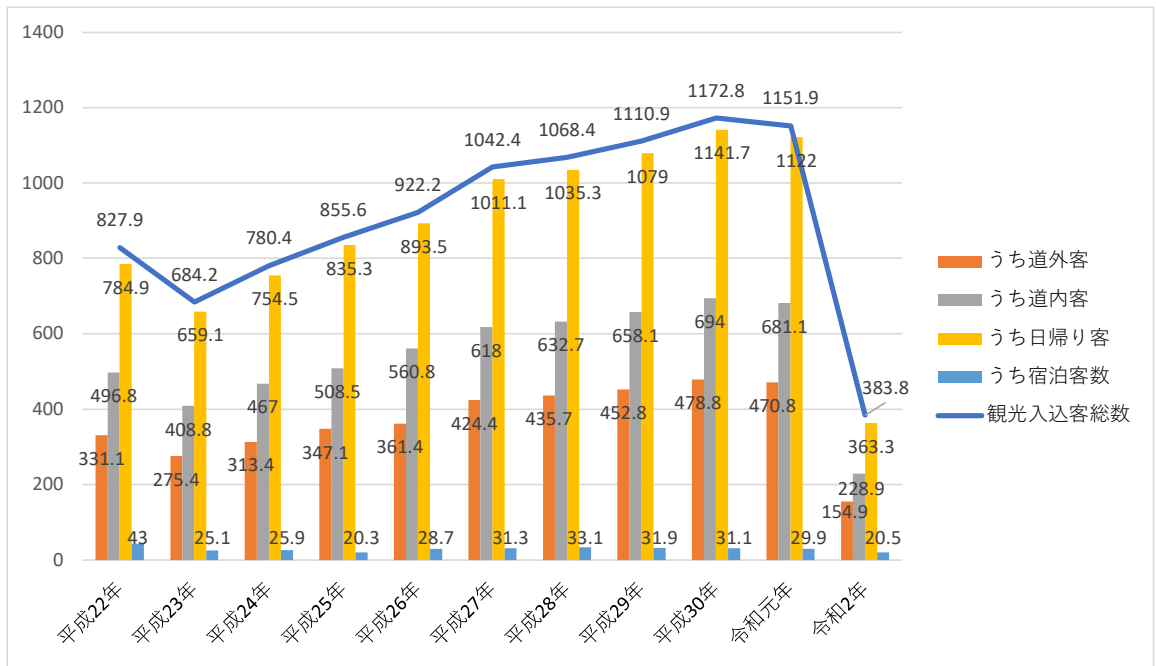
また、観光に関連する取組として、ラベンダーまつり&花火大会やウインターフェスティバルをはじめとする多彩なイベント、ラベンダーを介したフラワー都市交流事業や秋田県美郷町との交流等があります。また、中富良野町を拠点として夏には花畑の観察やカヌーによる川下り、山岳ガイドによる登山、モーターパラグライダーなどが楽しめるほか、冬はスキーやスノーモービル体験、スノーラフティング体験、スノーカイト体験などができ、季節を問わず雄大な自然を楽しむことができます。



北星山ラベンダー園のラベンダー畑
(出典:なかふらの観光協会ホームページ)



なかふらのフラワーパーク
(出典:中富良野町ホームページ)



観光入り込み客数の推移(出典:中富良野町ホームページ)

5) 町民の愛着心・文化に関する景観要素

町民の、町への愛着心が感じられる花植えや草刈といった暮らしの中の活動や、祭りやイベントなど、「まちの風景」として親しまれているものの視点から「町民の愛着心・文化に関する景観要素」を以下の3つの要素に整理します。

景観まちづくり活動

祭り・イベント

町民アンケート結果

① 景観まちづくり活動

中富良野町では、毎年、観光シーズン前に町内のごみ拾いを行うクリーンアップ作戦を実施しています。

また、田園地帯では農家が害虫予防のため、農地周辺や河川の草刈りを行なっています。

② 祭り・イベント

【なかふらのラベンダーまつり&花火大会】

毎年7月に北星山ラベンダー園を会場に開催され、昼は地元の有志によるステージ発表、夜には花火大会が行われています。来訪者にも町民にも愛される夏祭りです。

【なかふらの納涼まつり】

子ども盆踊りや仮装盆踊り等が行われ、葵太鼓や三味線愛好会、進声会、山内民謡会の演奏による北海盆唄が納涼まつりを盛り上げています。

【なかふフェスタ なかふらの夏の雪まつり】

冬場に倉庫に保管しておいた雪を使用し、夏場に雪遊びの場を提供しています。同時に子ども縁日も行われ、盆地の中富良野町の暑くて短い夏を楽しむことのできる催しとなっています。

【初夏市～POP UP なかふマルシェ～】

中富良野町内の飲食店等がキッチンカーで集まり、なかふらのフラワーパークの芝生広場でマルシェが開催されています。

【中富良野神社 例大祭】

毎年9月4日から6日までの3日間開催され、本祭の神輿渡御の後に行われるパレードでは、津軽獅子舞や郷土芸能の葵太鼓、稚児が巡行する姿などが見られます。宵宮祭では大注連縄の奉納、後日祭では各家に提灯を飾り、産子祭として1歳未満の赤ちゃんがいる家族が健康祈願のために神社へ集まります。

【ウインターフェスティバル】

毎冬行われるウインターフェスティバルでは、昼はステージイベントや雪中運動会、夜は町内の小中学生がつくったアイスクャンドルで北星山が彩られます。

③ 町民アンケート結果

- ・ アンケート実施：令和3（2021）年9月上旬～10月15日
- ・ 対象：中富良野町民（広報誌とともに回答用紙を配布、ハッピーボックスで回収、ウェブアンケートによる回答）

■ 8割以上の町民は中富良野町全体の景観について魅力を感じている

- ・ 中富良野町の自然の景観そのものや、自然景観を遮るものがない環境に魅力を感じている人が多数いました。

■ 町民7割程度が居住地周辺の環境に魅力を感じている

- ・ 住宅地周辺の環境に魅力を感じると回答した7割の人が、自然の景色そのものに魅力を感じています。

■ 将来にわたって、山や森林、河川などの自然景観と田畑などの農村風景を大切にしたいと回答

- ・ 将来にわたって大切にしたいものとして、「山や森林、河川などの自然の景色」と答えた人が最も多く、次いで「田畑などの農村風景」と回答した人が多数いました。

■ 既に4割の町民が景観を良くするために、自宅の庭やベランダなどの植栽など、家のまわりの緑化に取り組んでいる

- ・ すでに取り組んでいることとして、「自宅の庭やベランダなどの植栽など、家のまわりの緑化」が最も多く、次いで、「特に取り組んでいることがない」が4割弱、約3割の町民が「地域の緑化活動や清掃活動」に参加しています。

■ 今後、景観を良くするために、自宅の庭やベランダなどの植栽など、家のまわりの緑化に取り組みたい町民が約4割いる

- ・ 自宅の庭やベランダなどの植栽など、家のまわりの緑化に取り組みたいと回答した町民が約4割と最も多く、次いで地域の緑化活動や清掃活動に参加したいと回答した町民が約3割となりました。

■ 周囲と調和していない建築物や工作物が良好な景色やまちなみを損ねていると感じると回答

- ・ 色やデザイン、高さなどが周囲と調和していない建築物や工作物が景色を損ねていると約7割の町民が感じています。

(3) 景観資源

計画策定委員会や町民アンケート、町民ワークショップで出された、中富良野町の景観を印象付ける景観資源を以下に整理します。

		
なかふらのフラワーパーク	北星山展望台と十勝岳や富良野岳	北星山ラベンダー園
		
中富良野神社	ファーム富田	商店街
		
JR 富良野線の車両	なかふらのドリームパーク	軟石・煉瓦倉庫群
		
森林公園	NANAKAの花畑	北海道風景画館

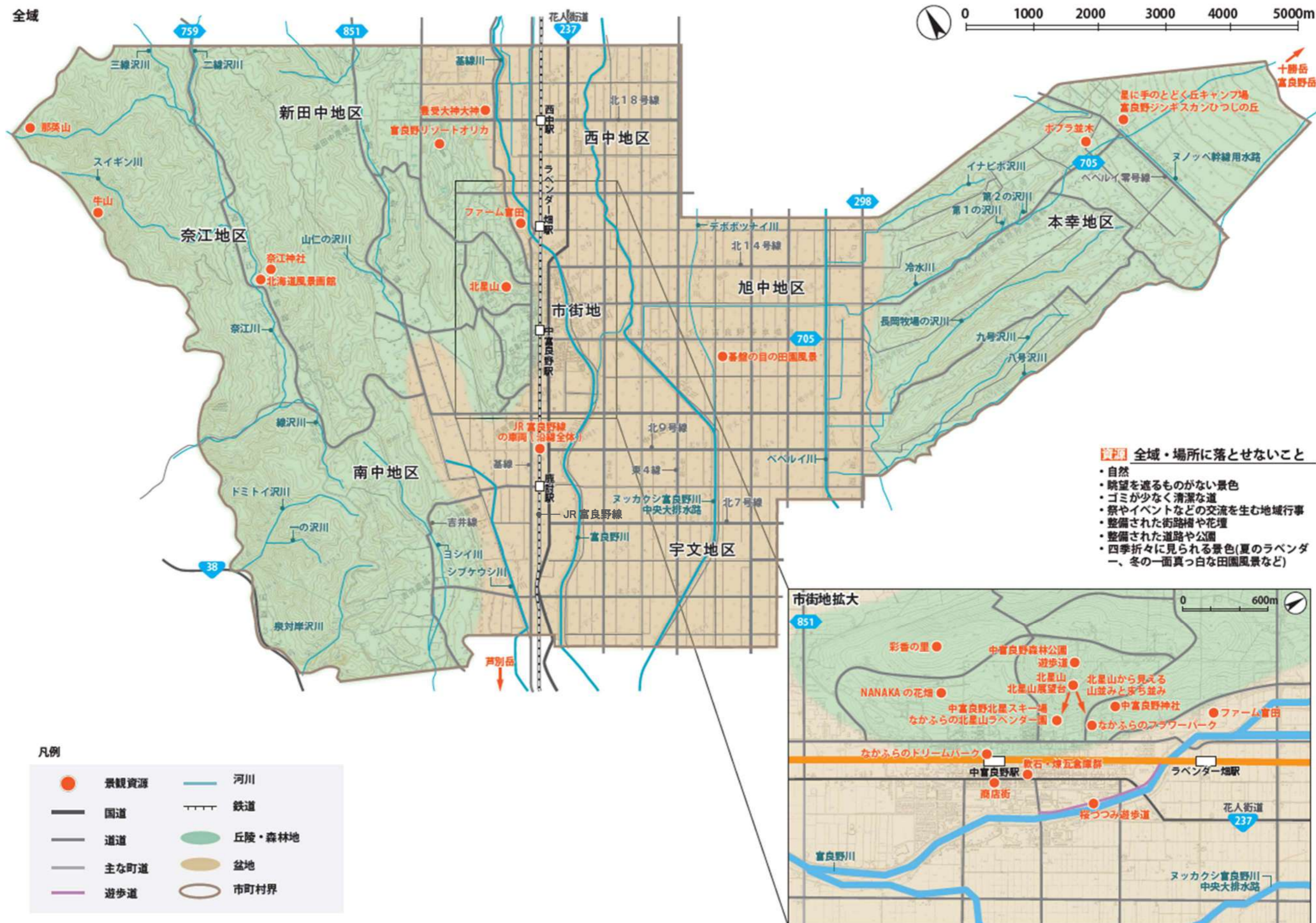
		
富良野リゾートオリカ	豊受大神	ポプラ並木
		
ひつじの丘	碁盤の目の田園風景	奈江神社

(4) 眺望道路・鉄路

以下は多くの中富良野町の人々が素晴らしい景観を眺める、大事な道路や鉄路です。景観まちづくりにおいて、これら道路や鉄路からの眺望は、特に配慮が求められます。

■眺望道路一覧

国道	国道 237 号
道道	道道 759号
	道道 851号
	道道 298号
	道道 705号
町道	町道 吉井線
	町道 北14号線
	町道 北18号線
	町道 北9号線
	町道 基線
	町道 北7号線
遊歩道等	桜つつみ遊歩道
	森林公園遊歩道
鉄道	JR 富良野線



図：中富良野町の景観資源位置図

(5) 景観特性

1) 自然・地形に関する景観特性

大雪山系の山々を背景に、富良野川やベベルイ川が流れる低地を中心として丘陵地に囲まれた雄大な景観が広がっています。

- ・ 中富良野町は北海道の中央部、富良野盆地に位置しており、東部には十勝岳や富良野岳が連なり、遠く大雪山を眺望することができます。また、夕張山地が南西に縦走し、夕張岳、芦別岳が富良野高原の景勝のランドマークとなっています。
- ・ 空知川の支流である富良野川、ヌッカクシ富良野川、デボツナイ川、ベベルイ川などが流れる低湿地を中心として、それらを囲む起伏に富んだ丘陵地が広がっており、丘陵地から望む大雪山系や夕張山系の山々が印象的な景観を形成しています。



2) 農林業に関する景観特性

① 田園

碁盤目状の水田やその中を豊かに流れる河川や用排水路が、広がりのある田園景観を形成しています。

- ・ 明治30年以降に開拓が開始され、低湿地であった富良野盆地では、中央大排水路による干拓により稲作が広がりました。水田や区画に沿って流れる用水路が特徴的な田園風景をつくりだしています。
- ・ 営農の集約化と効率化のため農地区画が拡大され、大きな面の水田に十勝岳の峰々が映り込む印象的な風景が、この地域に新しい景観をもたらしています。

② 農業

高低差のある土地を生かした多様な作物による農業景観が広がっています。

- ・ 緩やかな曲線を描く丘陵地の中腹や上部の斜面には、大規模な畑が広がっています。
- ・ 寒暖差の大きい気候や高低差のある土地を生かして、メロンや人参、秋小麦のほか、甜菜や馬鈴薯、玉葱などが多く作付けされており、遠景の山々と多様な作物による彩豊かな畑が四季の移ろいを感じさせる農村景観を生み出しています。

③林業

周辺の丘陵地では、針葉樹や広葉樹の森林が四季折々に表情を変える景観を形成しています。

- ・ 丘陵地に広がる中富良野町の森林面積は町の総面積の36%を占めており、まちの景観の貴重な緑の背景となっています。
- ・ 町内の森林面積の98%は一般民有林であり、人工林率の高い森林が主体となっていますが、林業就業者数の減少や木材市況の低迷などにより、資源としての生産力は下降傾向にあります。



3) まちの基盤に関する景観特性

①景観を印象付けるまっすぐな道路や鉄路景観

起伏のある土地と直線道路が、遠景まで見通せる特徴ある景観を町にもたらしめています。

- ・ 中富良野町の中心街には直線道路が多く、盆地に位置していることから、市街地からも緑と遠景の峰々によってつくられる景観を望むことができます。
- ・ 市街地を通る国道237号線は、旭川市、美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市を繋ぐ道路で「花人街道」と呼ばれており、沿道から花畑などが楽しめるルートになっています。一方で、観光客などによる交通量の増加や車両の大型化に伴い、交通渋滞の多発や道路の舗装の劣化などが見られます。

②親しみのある市街地景観

建物や工作物の老朽化などの問題がある一方、町民の暮らしや営みを感じられる景観があります。

- ・ 中富良野町の中心街は、町役場や病院、商店、飲食店などの生活機能や町立小中学校といった教育機関がコンパクトに集積しています。その他、軟石や煉瓦の倉庫群等、駅前を中心に農業用施設などが多く見られ、町民の暮らしや産業の豊かさを感じさせます。
- ・ 住宅や施設、看板等の工作物の老朽化、商店街の衰退による空き店舗の増加などが見られますが、市街地の沿道には、住民による植栽活動の成果である花やみどりも多くなっています。
- ・ 人口減少がゆるやかに続いているほか、高齢者が人口の約3割以上を占めており、少子高齢化社会に対応した公共施設の整備や活用方法が検討されています。



4) 花畑と観光産業に関する景観特性

① ラベンダー畑を中心とした花畑による景観

ラベンダー畑を中心とした花畑による景観が、観光地として人気を誇っています。

- ・ 中富良野町のラベンダーの歴史は長く、昭和 27 年頃にラベンダー栽培が始まりました。ラベンダーは町のシンボルとして町民に浸透しており、町内の店舗や看板、公共サイン等にラベンダーカラーが用いられています。
- ・ ラベンダーの他にもポピー、サルビアをはじめとする色とりどりの花畑が美しい「ファーム富田」や、全国で唯一の<リフトのあるラベンダー畑>を有する「北星山ラベンダー園」などが観光地として人気を博しています。

② 季節や時間ごとに自然環境がつくる印象的な風景

豊かな自然環境が四季を通して印象的な風景を生み観光客を楽しませています。

- ・ 十勝岳の峰々、星空、夕日、雲海などの美しい景色を楽しめるペンション型の宿泊施設のほか、田畑が広がる景観の中で料理が楽しめる古民家カフェなどがあり、多くの観光客が訪れることで、中富良野町の景観を生かした観光業が発展しています。
- ・ また、中富良野町を拠点として夏には花畑の観察やサイクリング、山岳ガイドによる登山等が楽しめるほか、冬はスキーやスノーモービル体験等ができ、季節を問わず中富良野の雄大な自然を活かしたアクティビティを楽しむ人々の風景を見ることができます。



5) 町民の愛着心・文化に関する景観特性

町民等による多様な活動が育んだ景観が息づいています。

- ・ 自然環境の保全、景観形成や環境教育を目的として、植栽活動、花いっぱい運動、市街地や河川敷などのごみ拾い、土壌調査体験などの取組が活発に行われ、町民による景観づくりが進められています。
- ・ 中富良野町では、ラベンダー畑や田園景観などの景観資源を活かしたイベントや取組が四季を通して数多く実施されており、町民だけでなく来訪者に親しまれています。



地域環境保全組合による
農道等の草刈や花植え



なかふらのサイクリング



ウインターフェスティバル



教育機関と連携しての植栽
活動



各種団体やボランティア会員
によるクリーンアップ作戦



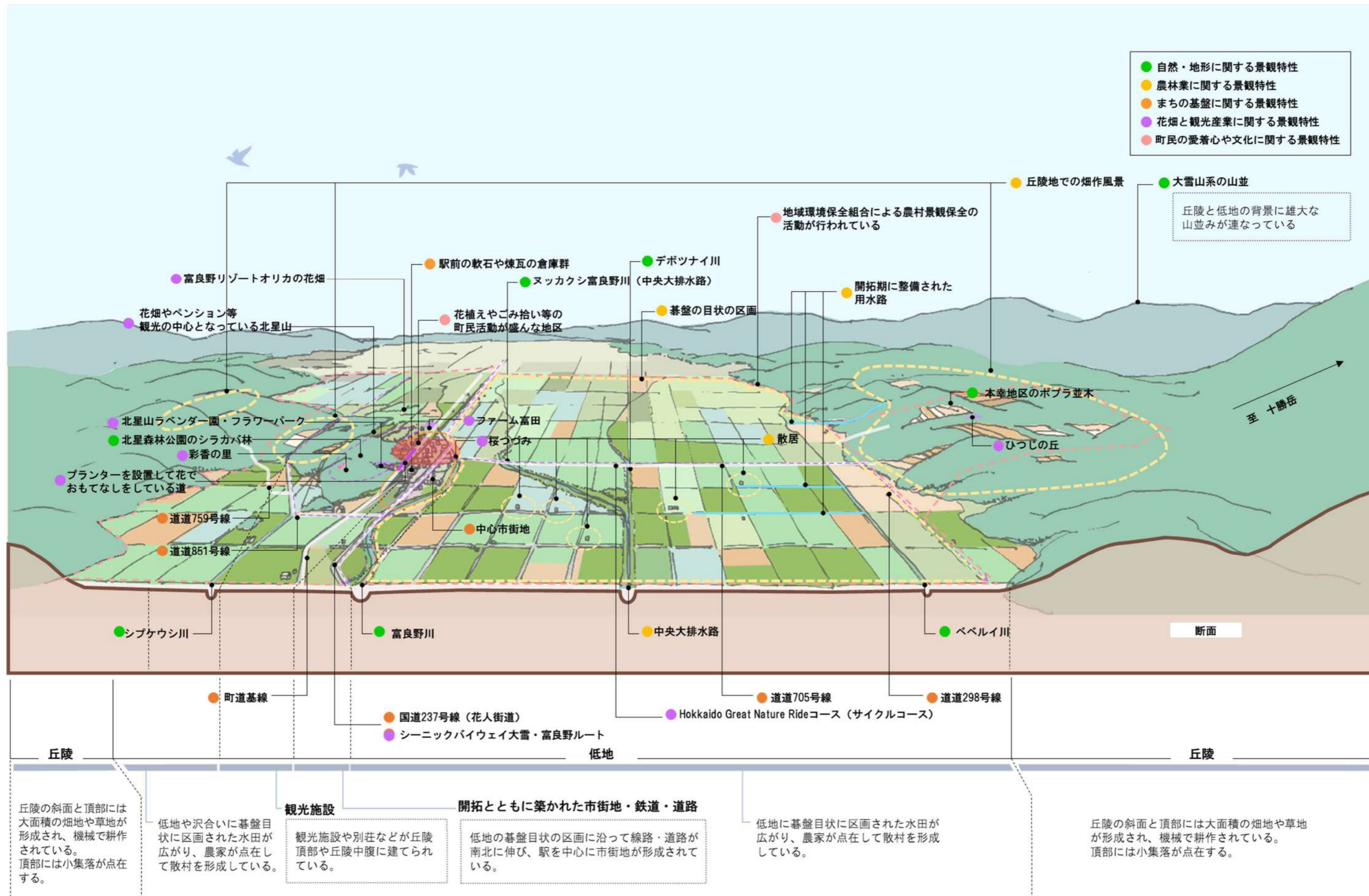
自主企画講座「なんでも探検
隊～土壌調査体験等～」



なかふらのラベンダーまつり



中富良野小学校アイスキャ
ンドル



図：中富良野町の景観特性図

2. 景観まちづくりに向けた課題

(1) 自然・地形

近年、森林エリアでの大規模な土地取得を伴う開発、森林・農地での太陽光パネルや風力発電施設の設置など、自然景観に影響を及ぼす可能性のある動きが懸念されています。町民ワークショップや町民アンケートへの回答では、大規模開発に伴う森林の伐採がもたらす自然環境への影響や、土砂崩れなどの災害に繋がることを懸念する声が多く挙げられました。

土地開発や大規模事業としての自然エネルギー施設の設置に対するルールづくりを通じて、豊かな森林や山並みへの眺望、河川などの自然環境に配慮した景観誘導を進め、地域振興と自然環境の保全のバランスに配慮した景観まちづくりが求められます。

また、多くの川が流れる中富良野町において、河川敷の雑草や雑木が繁茂し散策路の使用に影響が出たり水面が見えず親水性が損なわれることなどが課題となっており、美しい河川環境の魅力を維持するための取組が求められます。

(2) 農林業

中富良野町でも農業従事者の高齢化が進み、管理・維持が困難になった土地の発生、田園地域の空き家の放置などによる景観への影響が懸念されています。離農が発生した場合は、様々な施策を講じて耕作放棄地が生じないように農地の集約化を進め、経営耕地面積の維持を図っています。また、近年は大規模事業としての再生可能エネルギー施設の設置が景観に及ぼす影響も懸念されています。

まちの基幹産業としての農業を維持・保全しつつ、中富良野町を代表する景観資源・観光資源の魅力をより高めていくために、産業振興と観光振興の両面から継続性のある景観づくりが求められます。

林業についても、近年森林所有者の高齢化や継承がされず所有者が不明となる事案が生じており、伐期を迎えた森林の放置や、伐採後の植樹がされず更地のままになるケースなどが、防災上、景観上の課題となっています。

現在、中富良野町内では伐期を迎えている森林が多く、森林の適正な管理や利活用が求められています。そのためには、森林の育成だけでなく、木材製品に対する消費者の啓発、林業と消費者の間をつなぐ加工・流通産業の振興など、木材がうまく循環する経済的な仕組みが必要です。この循環の仕組みを一つの自治体だけでつくり上げることは困難ですが、「地域材」の活用が注目されている今こそ、これまで以上に、生産者、建築土木業、林業、木材加工業などの業種間の連携が求められています。

(3) まちの基盤

中心市街地の空き店舗の増加等による街並みの統一感の低下や、駅前から見える市街地のにぎわいの減少により中心性が弱くなっており、まちの顔としての魅力が失われつつあります。町民ワークショップや町民アンケートへの回答では、空き地などの対策や駅前や商店街の整備を求める意見が多く挙げられました。

また、土地建物所有者の高齢化にともない土地建物の所有者の更新が進み、街並みに変化していく可能性も指摘されます。

このような変化に備えて、建物や工作物などの色彩や形態、配置、高さ等のルールづくりとともに、賑わいを創出する工夫、家や店先の緑化など、中富良野町の特徴を生かしたコンパクトで質の高い市街地の景観づくりを進め、住民にとって求心性があり来訪者にも分かりやすい、中富良野町の顔としての市街地の景観づくりが求められます。

(4) 花畑と観光産業

「花のまち」を掲げている中富良野町では、公共施設を花により彩る演出や、個人宅や周辺の沿道に花壇を整備する活動などが行われていますが、近年は花植えや花の維持管理を担う人材の高齢化や人材不足が課題となっています。

また、夏季に国内外の観光客が多く訪れる本町では、道路へのゴミのポイ捨てなど、マナー啓発も課題となっています。

さらに、今後も、中富良野町の豊かな自然や花畑を誘客素材とする観光施設やカフェ、宿泊施設などの建設が進むことも予想され、これらの施設が周辺環境と調和するよう誘導していく必要があります。また、彩りや清潔感のあるまち並み、雄大な山並みなどの自然環境と調和するまち並み、点在する眺望点を繋ぐ演出などによって、地域の人や観光客に心地良さとホスピタリティを感じさせる景観づくりが求められます。

(5) 町民の愛着心・文化

近年の近隣市町村の急速な開発を受け、中富良野町へも町外から様々な人や企業が町へ参入していることから、中富良野町の自然・地形の上に形成された生業やまち並み、文化を改めて見つめなおし、過去から現在まで人々が継承してきた中富良野町の風景を損なわず育んでいけるよう、中富良野町の“大切にしたいもの”や“潜在的な魅力”の把握が求められます。

また、中富良野町に関わる全ての人が、まちに誇りと愛着を持つ「意識を醸成」し、これからも「守る」べきもの、今あるものの魅力をさらに「磨く」べきものを理解し、それらを「伝え」、その想いを未来に「つなぐ」ため、町民、行政、事業者、来訪者が協働して景観に関するまちづくりに取り組むことが大切です。そのために、景観の魅力を体感できる機会の創出、大切な景観資源を守り魅力を向上させる取組、町の景観の魅力の積極的な発信、広域連携の推進、次世代を担う人材育成などが求められます。